

令和2年度第2回 青森市障がい者自立支援協議会 議事要旨

日時 令和3年2月4日（木）14:00～16:00

場所 青森市総合福祉センター 2階 大集会室

出席者 (委員) 石田会長、津川委員、西村委員、工藤委員、村岡委員、中村委員、田中委員、佐藤委員、野呂委員、藤川委員、木村委員、谷川委員、長谷川委員、岡田委員、齋藤委員  
(計15名)

(事務局) 障がい者支援課 加福参事、山口主幹、高木主幹、赤平主幹、笹原主査、竹内主事、三上主事

1 開会

2 報告事項

(1) 地域生活支援拠点等の整備について

<事務局が「資料 地域生活支援拠点等の整備について」に基づき説明>

<委員が「資料 障がい者支援施設幸養苑地域生活支援拠点事業に関する事業計画【概要版】」に基づき説明>

(2) 障がい児部会の設置について

<事務局が障がい児部会の設置について説明>

3 協議事項

(1) 青森市における今後の障がい者に対する相談支援体制のあり方に関する提言について

<事務局が相談支援部会の開催状況や検討状況について説明>

<委員が「資料 青森市における今後の障がい者に対する相談支援体制のあり方に関する提言(案)」に基づき説明>

<各委員が提言内容について承認した。今後、市へ提出することとした。>

(2) 各部会での話し合い及び各部会からの報告

<各部会での協議後、協議内容を部会リーダー等から報告>

(委員)「精神障がい者の地域生活支援部会」では、今年度は金銭管理支援についていろいろお話を伺う機会を設ける予定であったが、新型コロナウイルスの関係でできなかった。来年度は文書で聞き取りし、特に気になる点については直接お話を伺う機会を作りたい。

(委員)「みんなの未来部会」では、当事者の方が新型コロナウイルスにかかった時どうしたらいいのか、緊急時の対応がすごく不安、障がいに合わせて対応が望まれるなどの意見があった。また、自分の障がいが重くなった時、家族が認知症になった時など、

今回協議会が市へ提言する相談支援体制が拠点になってほしいとの声があった。次年度の活動については、外での活動は難しいため、部会内で各団体の活動を紹介することで、お互いの活動内容を理解し連携を強化していきたい。

(委員)「就労支援部会」では、昨年から引き続き就労支援ガイドブックの作成を行っていて、今回ある程度内容が固まった。今後は、ガイドブックの内容が客観的にみてわかりやすいかどうかを、相談支援専門員や特別支援学校の先生に確認していただいで進めたい。

## (2) 部会に参加した委員の感想・意見

(委員)今回は金銭管理支援について協議し、当事者の権利も守りながら管理することは重要であり難しい部分でもあるが、どう支援していくべきか今後深く協議していけたらと思っている。

(委員)協議の最後に各団体が普段どういう活動をしているのかという話が出て、コロナ渦でも普段できる活動を積み重ねて行くことが大事だと実感した。自分でもいろいろな団体で活動しているが、改めて普段からどういう活動をしているかお互いに知ることが、各団体の連携強化に繋がるなど、今後大事になってくると感じた。

(委員)就労支援の取組については、個々の状況やいろいろな立場から、どのような方向性で支援するべきか異なってくる。今後ガイドブックを活用し、どのような方向性に向かえばいいのか連携して支援して行きたいと感じた。

## 5 閉会

—以上—